

佳作

ぼくとウーフはにているところがある

荒川区立汐入小学校二年

亀田 興惟

やなぎ田くに男先生、こんにちは。

ぼくは、「くまの子ウーフ」という本を読みました。なぜこの本をえらんだかというところ、ぼくは小さいころからくまが大すきだからです。

この本には、みじかいお話が九つのついでにありました。その中でぼくが気に入ったのは、「さかなにはなぜしたがない」です。ウーフはさかなになりたくて、いろいろなしゅ行をしたり、一つのなぞをかいつしたりするためにがんばります。

ぼくには、ウーフとにているところが二つあります。一つ目は、ゆめをもっているところです。

ウーフはさかなになりたいと本気で思っています。ぼくも、はやい玉をうつたりなげたりできるプロやきゅうせん手になりたいというゆめがあります。お父さんのように、かつこよくバットをふれるようになってみたいです。

二つ目は、ゆめにむかっているいろいろな力をしているところです。ウーフはさかなになるために、したをぬいたり、足をとろうとしたりします。ぼくもプロやきゅうせん手になるために、毎朝れんしゅうをしています。週末には一日五時間もれんしゅうをするし、毎日ストレッチもやっています。コーチにちゅういされたところをなおすのは時間がかかるけど、

「なおしたい、なおさなきゃ」という気もちでれんしゅうをつづけています。

だから、ウーフはぼくとにているところがある
なと思いつながら読んでいました。でも、ウーフが
さかなになりたいというのはちよつとふしぎです。
なぜなら、くまなのにさなかになりたいなんて、
ぼくだったらさかになりたくないのにな、と思う
からです。

でも、もしかしたら、さかなはぼくになりたい
かもしれません。

ぼくはしたもあるし、さかなとちがつて手もあ
るから、ともだちとかたをくんだり、いつしよに
ボールであそぶことができます。ぼくは、ぼくで
いられてしあわせだと思いました。